

地形・地質

両筑平野：筑後川中流の右岸側に展開する洪積段丘と、これを刻んだ沖積地からなります。砂礫層からなる低位段丘面（須玖面）が広く分布します。

筑後川中流平野：夜明ダムから瀬の下頭首工地点までをさしています。

佐賀・白石平野：佐賀平野は筑後川下流右岸部のデルタ性堆積物と諸河川沿いの扇状地堆積物、白石平野は六角川河口に発達したデルタ性堆積物からなります。

佐賀・白石平野の地質層序表

時代	白石平野			佐賀平野			摘要
	層名	層厚	岩相	層名	層厚	岩相	
完新世	有明粘土層	平均 20 m	青灰色シルト質粘土 (最下部有機質に富む)	A	0~30 m	シルト質粘土ローム (いわゆる有明粘土層)	下位層に対して賦圧層, 主要な被圧密層
	島原海湾層	10 ±	海進堆積層 (プレボルレアル期)	B	0~10 m	泥砂の互層	第一帯水層 (塩水化が強い)
更新世	阿蘇新期溶結凝灰岩	1~5	軽石質火山灰 (不連続分布)	C	10~20 m	浮石(軽石)を含む砂 八女粘土層	半透水性 鏡層として役立つ多孔隙細粒層 (33,000年BP)
	未区分層 I ~ II	10 ±	砂礫混りシルト (下末吉海進に伴う堆積層)	D	50 ± m	上部は東部でローム粘土, 中下部は細礫混り粗粒砂	第二帯水層 (あまり良好な帯水層ではない)
	未区分層 III ~ V	120 ±	砂礫 シルトの互層 (火山噴出物を挟む)	E	120 + m	上から泥層ついで砂層からなる堆積物の都合4回の繰返し	主要帯水層 (現在の主要な地下水取水層となっている)
	未区分層 IV	100 +	シルト・細粒砂・中粗砂の互層 (細粒砂は岩化・植物化石を含む)	F		泥岩	

~~~~~ 不整合を示す。

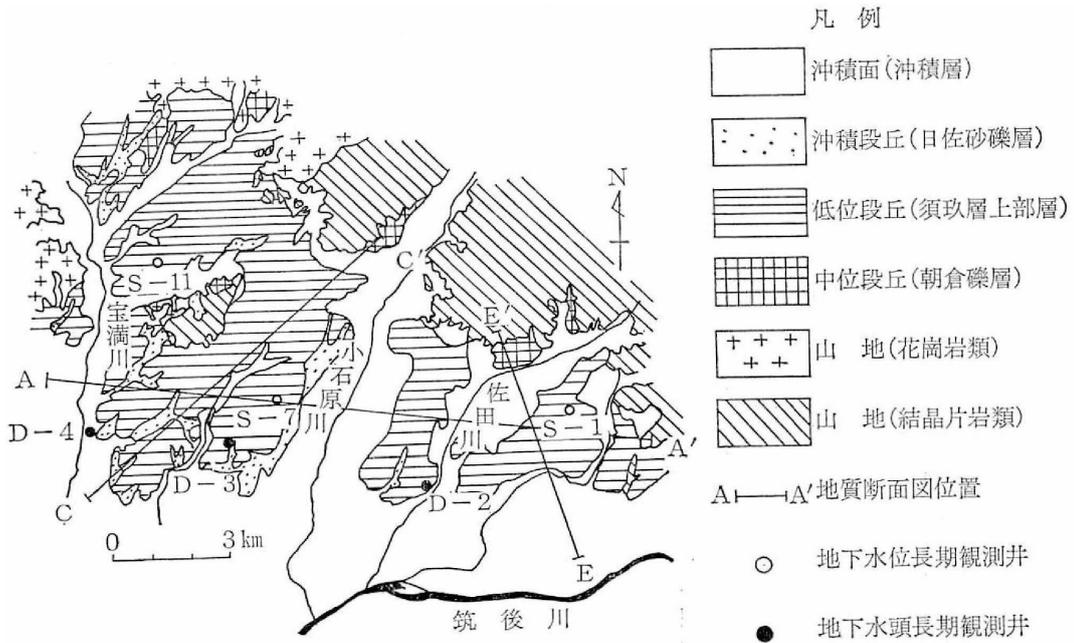
第三紀層

## 地下水

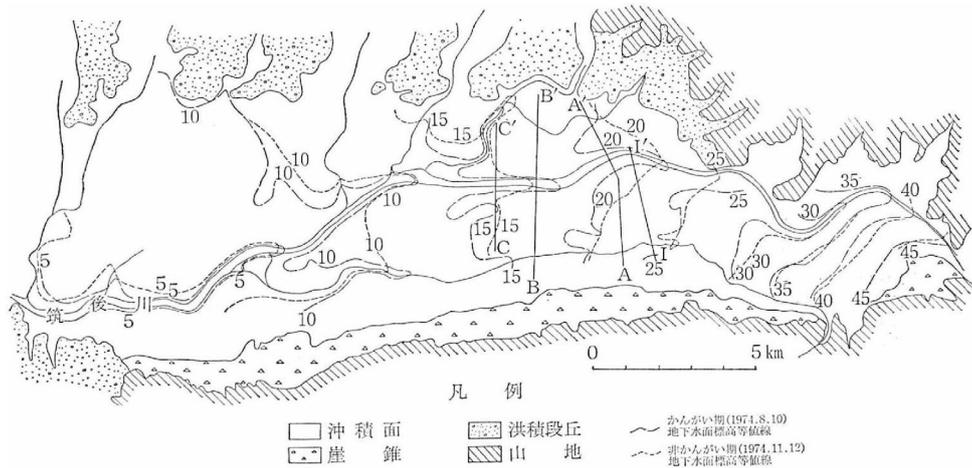
両筑平野：浅井戸で取水される低位段丘の砂礫層は良好な帯水層です。

筑後川中流平野：沖積層が良好な帯水層です。

佐賀・白石平野：未区分洪積層はシルト，砂，礫などの互層からなり，大きく3区分され，両平野における主要帯水層を含んでいます。



両筑平野の地形地質区分図



筑後川中流平野の地下水面図

出典 日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記の Web ページで閲覧できます。

[https://jagh.jp/activities/groundwater\\_database/](https://jagh.jp/activities/groundwater_database/)（日本地下水学会）